

**アジア・太平洋価値観国際比較調査  
—文化多様体の統計科学的解析—**

Asia Pacific Values Survey— Cultural Manifold Analysis  
(CULMAN) on People's Sense of Trust—

吉野 諒三 (YOSHINO RYOZO)

統計数理研究所・調査科学研究センター・センター長・教授



研究の概要

本計画は、アジア・太平洋諸国の人々の意識構造について、「統計的標本抽出法」に則った面接調査を遂行し、特に諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報を与える分析を推進させる。収集した意識調査のデータは、WEB 等を利用して世界へ一般公開する。

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：社会調査法、社会集団・社会組織、国際社会・エスニシティ

1. 研究開始当初の背景

統計数理研究所では、1953 年以来、「日本人の国民性」調査を継続してきた。この研究は 1970 年頃より国際比較調へと拡張され、「連鎖的比較 (Cultural Link Analysis)」や「文化多様体解析 (Cultural Manifold Analysis)」と呼ばれる方法論が発展し、「データの科学」という実践パラダイムの展開へ結びついている。

21 世紀初頭の今日、世界秩序の再構成が進み、国家を超えた単位によって構成された国際社会が生まれつつある。それが世界の平和と繁栄へと繋がるためには、国家間、民族間の円滑な相互理解が重要である。その成功のためには、現在の国内外の状況を適確に把握する必要がある。

2. 研究の目的

われわれの研究の主目的は、アジア・太平洋諸国の人々の意識構造について、「標本抽出法」に則った面接調査を遂行し、特に「信頼感」のあり方について焦点を当てながら、

各国の人々の意識構造を統計科学的に解明することにある。

3. 研究の方法

特に、以下 a)~c)に重点をおいて研究を遂行する。

- a) アジア・太平洋諸国の人々の意識構造について統計的標本抽出法に則った面接調査を遂行する。
- b) 特に、アジア・太平洋諸国民の「信頼感」のあり方に焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報の収集を推進させる。
- c) 収集した「アジア・太平洋諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査」データとともに世界へ一般公開する。

4. これまでの成果

平成 24 年度末までに、日本、米国、中国 (北京、上海、香港)、台湾、韓国、シンガポール、オーストラリアで意識調査を遂行している。回収調査データは整備し、基本調査集計データに関しては、整備後速やかに統計数理研究所・調査研究レポートとして刊行配布し、統計数理研究所 WEB 上でも公開し、

官民学の各方面での利用に供している。

この間、各時点での調査データは、既存の関連データとともに解析の試行錯誤を継続している。その成果の一部は、各時点で、各学会の研究発表大会や、関連の研究シンポジウムやワークショップにて講演してきた。

その中で、本研究の主要テーマのアジア・太平洋地域の人々の「信頼感」のあり方を計測する質問項目や尺度に関して、米国のGSS(General Social Survey)対人的信頼感の質問項目群やWVS(World Values Survey)の各組織に対する信頼感の質問項目群など、欧米の既存の質問項目や尺度の限界が改めて浮き彫りになってきた。

これに対し、われわれは人々の「生きがい」や「死生観」に関する質問項目、1980年代に林知己夫や飽戸弘らによって開発された「おばけ調査」というニックネームがつけられている人々の深層構造の解明を試みた質問項目群を導入し、国際比較の文脈の中でデータ解析を試行錯誤し始めた。「信頼感」を含め、歴史と文化、宗教や社会が密接に絡み合った様相が、多次元データ解析の中で浮き彫りになりつつある。

#### 5. 今後の計画

平成25年度はインドにおける面接調査を遂行する。他方で、タイ、マレーシア、フィリピン等の東南アジア各国の都市と地方の一部における面接調査を、統計技術的な問題やテロ等の治安問題を勘案しながら、小規模でも可能な範囲で遂行することを検討する。

上記の海外調査に並行して、日本時系列調査として、「第13回日本人の国民性調査」を遂行する。これは、国際比較版

の日本2010調査とリンクさせることにより、調査データの空間的解析と時間的解析の比較の要となる。

最終年度である26年度は、22年～25年度に収集した各国の調査データを総合的に分析し、「アジア・太平洋価値観国際比較調査」最終報告書をまとめ、国内外へ配布する。他方で調査データのコンピューター・ネットワーク等を利用した公開作業を推進させる。

#### 6. これまでの発表論文等(受賞等を含む)

・ 吉野諒三. 日本行動計量学会・林知己夫賞(功績賞) 2010年9月

・ Yoshino, R. On the trust of nations Japan-Russian Joint Workshop Social Trust in Russia and Japanese Contexts. Institute of Social Sciences, Chuo University. (March 27-28, 2013).

・ 吉野諒三・大崎裕子(2013、印刷中). 「主観的階層帰属意識」, 「満足感」と「信頼感」. 行動計量学.

・ 吉野諒三・角田弘子(2013). 「人のつながりと広がり---国際比較の視点から」. 「ソーシャル・キャピタルで解く社会的孤立」(稲葉・藤原編) 第1章. ミネルヴェア書房.

・ 吉野諒三(2012). 特集号「数量化理論の現在」. 「数量化理論と社会調査、そしてそれから」. 社会と調査、9、33-40.

・ Yoshino, R. (2012) Reconstruction of Trust on a Cultural Manifold. In Trust: Comparative Perspectives (M. Sasaki & R. M. Marsh [eds.]), 297-346. Brill.

#### 【ホームページ等】

・ 研究者の紹介

[http://www.ism.ac.jp/souran/kenkyusya/yoshino\\_ryozo.html](http://www.ism.ac.jp/souran/kenkyusya/yoshino_ryozo.html)

・ 過去の国際比較調査

<http://www.ism.ac.jp/~yoshino/index.htm>

・ 統計数理研究所・調査研究レポート

<http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index.html>

・ 統計数理研究所・調査WEB

[http://www.ism.ac.jp/ism\\_info\\_j/kokuminsei.html](http://www.ism.ac.jp/ism_info_j/kokuminsei.html)